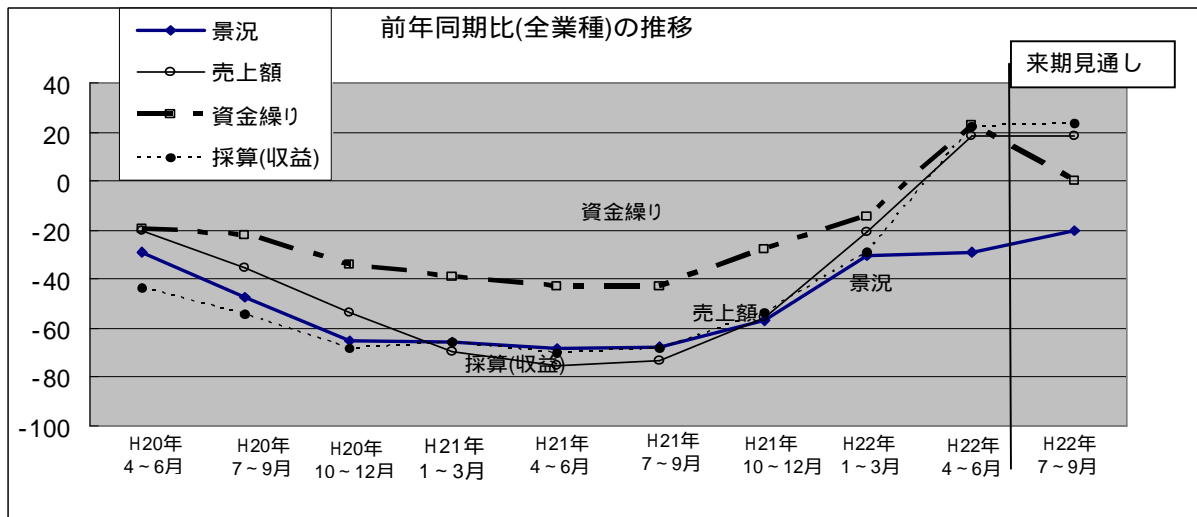


岡崎市内景況調査結果 (平成22年4～6月期分)

- 岡崎市内の今期(平成22年4～6月)の景況判断D Iは、28.9ポイントとなり、前期に比べ微増しており、景況感は4半期連続で改善しており回復傾向にある。
- 来期(平成22年7～9月)の先行きの見通しについては、景況D Iが8.6ポイント増の20.3ポイントとなっており、回復傾向は来期も続くと思込んでいる。



1. 調査対象

- (1)対象企業数 本所各部会役員・幹事事業所 468企業
 (2)回答企業数 有効回答 152企業(回答率32.4%)

2. 調査対象時期

- 平成22年4～6月期
 (1)前年同期(平成22年1～3月)と比べた今期の状況
 (2)今期と比べた来期(平成22年4～6月)の先行き見通し

3. 調査時点

平成22年7月28日～平成22年8月2日

4. 調査方法

ファクシミリによるアンケート方式

5. 有効回答企業数内訳

業種	回答企業数	構成比
製造業	35	23.0%
建設業	42	27.6%
小売・卸売業	41	27.0%
サービス業	34	22.4%
合計	152	100.0%

6 その他

本報告書中のD Iとは、「ディフュージョン・インデックス」(景気動向指数)の略で、各調査項目について「増加」(上昇、好転)した企業割合から、「減少」(低下、悪化)した企業割合を差し引いた値である。例えば、売上額で「増加」30%、「不変」50%、「減少」20%の場合のD Iは、 $30 - 20 = 10$ となる。

また変化幅は、「景況」、「売上額」、「資金繰り」、「採算(収益)」のプラス幅が増加し「」であれば企業経営にとって良好になっていることを意味する。一方「原材料仕入価格」、「製品在庫」では、変化幅が「」であれば、「増加」が増えていることから、企業経営にとっては悪化したことを意味する。

市内の景況全体の概要

岡崎市内の今期(平成22年4～6月)の景況判断DIは、28.9ポイントとなり、前期に比べ微増しており、4半期連続で改善している。

景況DIは、依然マイナスポイントではあるが、リーマンショック以前の水準(平成20年4～6月29.2)をやや上回るまで回復した。

製造業の回復傾向に加えて、小売業が23.3ポイント増と大幅な改善が、回復傾向を牽引している。

来期(平成22年7～9月)の先行き見通しについては、景況DIが8.6ポイント増の20.3となっており、僅かながら回復傾向は来期も続くと思込んでいる。

【データ：全業種】

	前年同期比(前期) (H22.1-3月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H22.4-6月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H22.7-9月期)
景況	30.1	1.2	28.9	8.6	20.3
売上額	20.8	2.4	18.4	0	18.4
資金繰り	14.4	7.3	23.0	0	21.7
採算(収益)	28.9	2.0	26.9	3.3	23.6

売上額は、建設業では完成工事(請負工事)額

業種別の概要

(1) 製造業

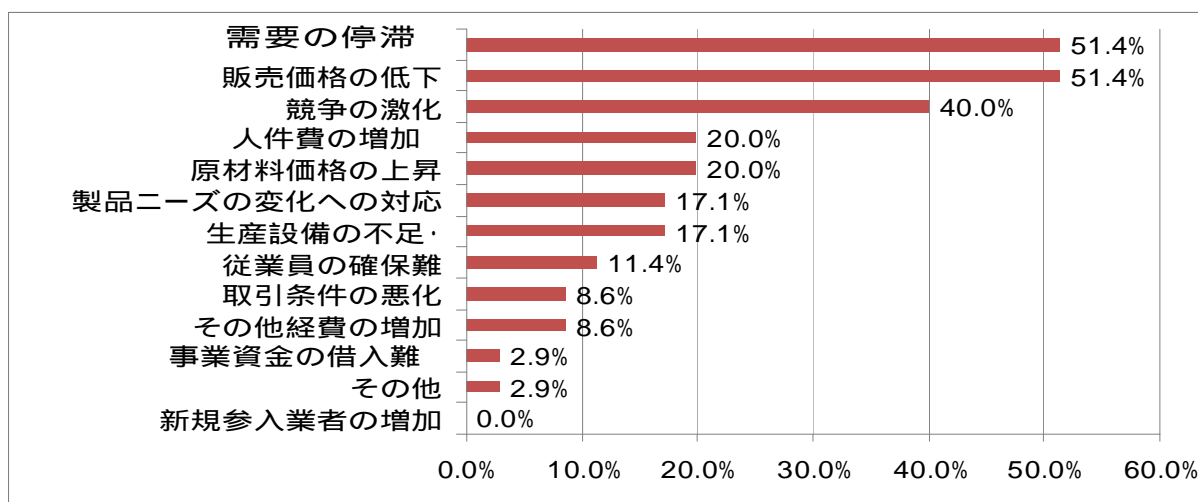
景況DIは、前年同期比が8.2増の20.0ポイントとなり、前回ともにプラスにやや上昇した。採算(収益)が前回と比べ22.5ポイントと大幅に上昇している。

来期の見通しについては、景況DIは2.9ポイント増の22.9となっており、継続して上向きに景況が回復する見込みである。

【データ：製造業】

	前年同期比(今期) (H22.1-3月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H22.4-6月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H22.7-9月期)
景況	11.8	8.2	20.0	2.9	22.9
売上額	33.3	9.6	42.9	20.0	22.9
原材料仕入価格	13.7	12.0	25.7	5.7	31.4
製品在庫	18.0	4.0	14.0	0	14.0
資金繰り	11.8	3.2	8.6	5.7	2.9
採算(収益)	11.8	22.5	34.3	13.7	20.6

【経営上の問題点】



【主な事業者の声 直面する経営課題・業界動向】

- ・ 日本から工業、産業を移しすぎ、空洞化で景気は悪くなる一方だと思ふ。
- ・ 不安定な品質にもかかわらず、低価格であるがため輸入台が大きく定着の傾向にあるので過度な販売競争となり、取引条件の悪化を招いている。需要は減少するばかり。国内でのリサイクル産業を真面目に守る施設も何もない。現状では、皆経営意欲も失い廃業を選ぶ業者が増加中である。産業廃棄物企業の隆盛に比べ、繊維リサイクル業界はどんどん縮小化していくのではないかと懸念されている始末である。
- ・ 自動車業界にあって、少し上向いていると思われる様に(全体的)思われますが、受注車種により業績は大幅に変わる。

(2)建設業

完成工事額16.5ポイント減、景況DIは前期に比べ12.9ポイント減の71.4ポイントで依然として低迷が続いている。

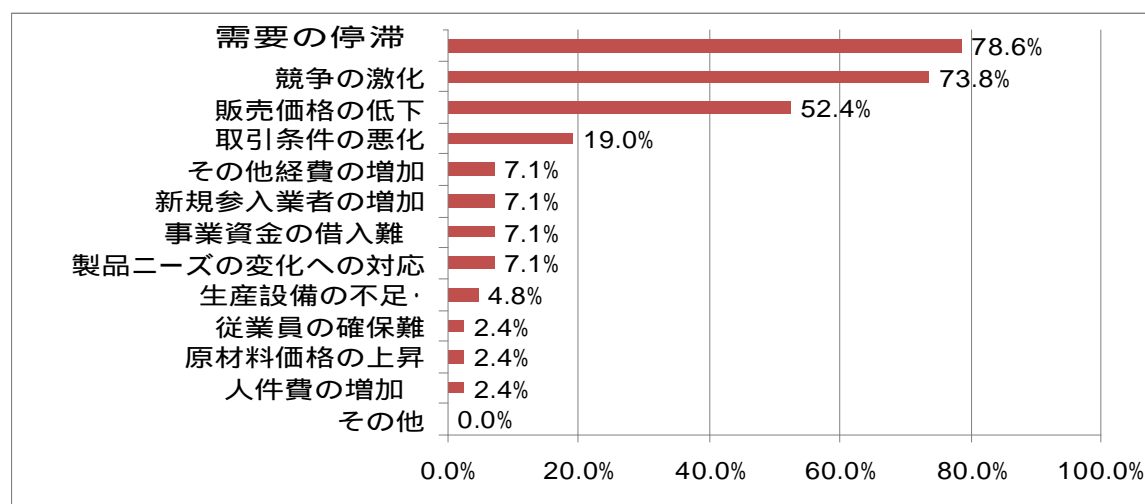
また採算(収益)が20.1ポイントと大幅に落ち込み減少しており、競争の激化の中で、価格の低下等により、減収、減益が続いている。

来期の見通しについては、景況DIは変化幅が7.1増の64.3となりやや改善が予想される。

【データ：建設業】

	前年同期比(前期) (H22.1-3月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H22.4-6月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H22.7-9月期)
景況	58.5	12.9	71.4	7.1	64.3
完成工事額	52.5	16.5	69.0	4.7	64.3
受注額(新規契約)	62.5	5.4	57.1	2.3	54.8
資材仕入価格	2.5	14.4	11.9	11.9	0
資金繰り	34.1	13.5	47.6	4.8	52.4
採算(収益)	53.7	20.1	73.8	4.8	69.0

【経営上の問題点】



【主な事業者の声 直面する経営課題・業界動向】

- ・ 諸官庁の最低価格提示に問題有。

(3) 小売・卸売業

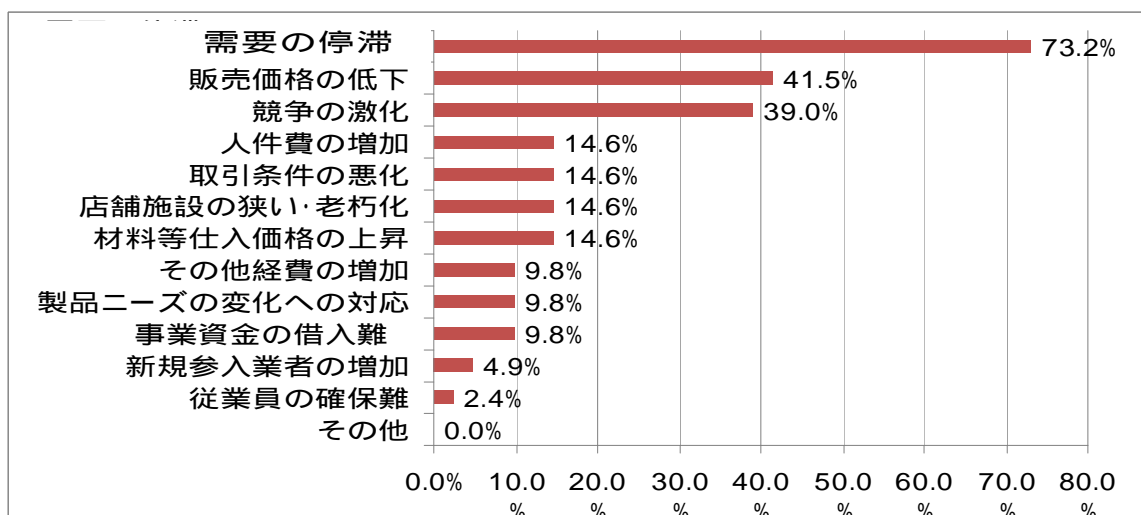
売上、採算がプラスに改善していることから、景況DIは、23.3ポイント増の24.4と大幅に改善している。

来期についてはいまだマイナスなものの全体的にポイント増となっており、景況も引き続き改善が見込まれ、景況の改善を実感する企業も一部出はじめている。

【データ：小売・卸売業】

	前年同期比(前期) (H22.1-3月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H22.4-6月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H22.7-9月期)
景況	47.7	23.3	24.4	9.8	14.6
売上額	50.0	13.4	36.6	14.6	22.0
商品仕入価格	15.9	1.2	17.1	12.1	5.0
商品在庫	31.8	2.5	29.3	9.8	19.5
資金繰り	22.7	5.6	17.1	2.5	14.6
採算(収益)	52.3	18.2	34.1	9.7	24.4

【経営上の問題点】



【主な事業者の声 直面する経営課題・業界動向】

- ・ 売上減少に伴い経営状態は良いとは言えないが、今までの無駄を見直すこともでき、再スタートの為準備段階だとプラスに考える様にしている。(貴金属)
- ・ 年々販売店における火薬量の規制(消防署)が厳しくなっている為、地域によっては、花火が買い辛く、消費も減少する結果となっている。
- ・ 前年同期では好転ではあるが、まだまだ不十分のままである。(ガソリンスタンド)
- ・ デフレが止まらなく、値引きでないと売れない。(雑貨)
- ・ どの業界もデフレ気味に成り低価格競争の一途に成り良い話は聞こえない。(食品)

(4) サービス業

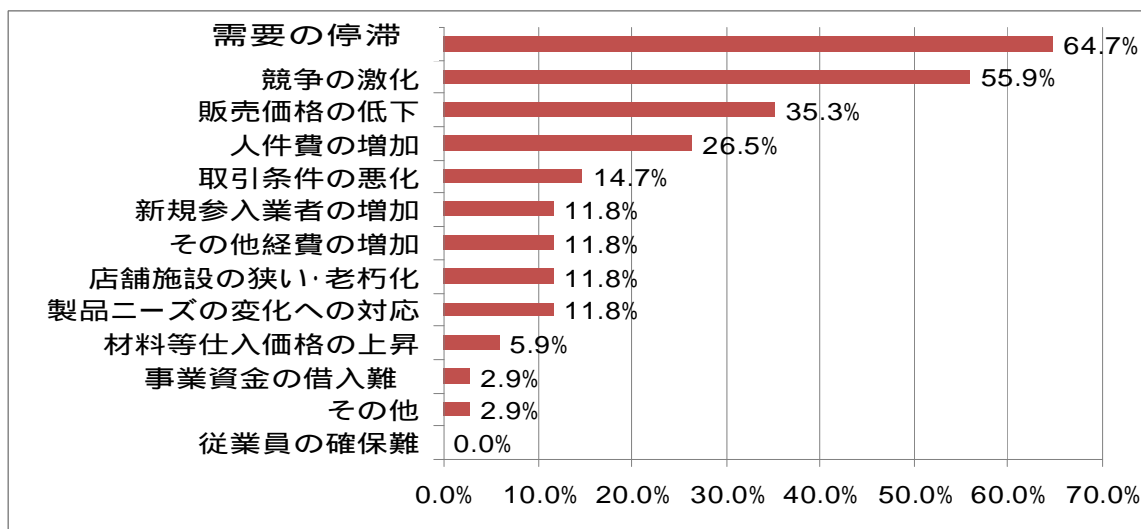
前期に引き続き、売上額、利用客数が大幅に改善しているものの、採算は微増と5.5ポイント増となっていることから、収益に結びついておらず、景況DIもわずかな改善にとどまっている。

来期の見通しは、採算の改善が見込まれることから景況DIも14.8増の17.6ポイントと回復傾向がさらに進むと見込まれる。

【データ：サービス業】

	前年同期比(前期) (H22.1-3月期)	変化幅	前年同期比(今期) (H22.4-6月期)	変化幅	来期の見通し(来期) (H22.7-9月期)
景況	35.1	2.7	32.4	14.8	17.6
売上額	27.0	24.1	2.9	2.9	0
利用客数	30.6	24.5	6.1	3.1	3.0
資金繰り	18.9	7.6	26.5	8.9	17.6
採算(収益)	29.7	5.5	24.2	12.4	11.8

【経営上の問題点】



【主な事業者の声 直面する経営課題・業界動向】

- ・ 回復気運はあるが業界全体の事業低迷により運賃収入が激減している。(運輸業)
- ・ 将来像がつかめなくて困っている。(美容業)
- ・ アパート、空室過大、入居オファーが極端に少ない。(不動産業)
- ・ 値引き販売常態化。客はネットで全国の学校と比較。(自動車学校)
- ・ 需要の停滞と競争の激化で非常に厳しい状態下にある。